

Contents 目次

第1章 めざすべき市の姿 ————— 20

- 1 将来都市像
- 2 基本理念

第2章 まちづくりの基本目標と施策の大綱 ————— 24

基本目標1

安心していきいきと暮らせるまち（健康・福祉）

基本目標2

自然と調和した安全でうるおいのあるまち（環境・防災防犯）

基本目標3

豊かな心を育み人が輝くまち（生涯学習・教育）

基本目標4

快適で利便性の高い魅力あるまち（都市基盤）

基本目標5

地域資源を生かした活力あふれるまち（産業）

基本目標6

市民とともに歩む ひらかれたまち（協働・行財政運営）

第1章 めざすべき市の姿

1 将来都市像

五条川の悠久の流れとともに、
先人たちが積み重ねてきた、有形・無形のまちの歴史や文化。
これらが、住んでいる人と人とを結び、つながりを広げながら、
住んでいることに誇りや愛着の持てるまち、
子どもも大人も、だれもが、
いつまでも住み続けたいと思えるまち、住んでみたくなるまちを
みんなで力を合わせながら育んでいくことを展望して、

健康で明るい 緑の文化都市

を将来都市像とします。

これは、1975年(昭和50年)以来35年間、本市の普遍的なあるべき姿を表す都市像であり、
新しい時代に対応して今後とも継承・発展させていくものです。

健康



市民一人ひとりの体と心が
健やかな状態で暮らせるように、
市民の暮らしを取り巻く生活環境や
自然環境が良好な状態であるように

・・・という想いが込められています

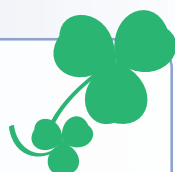
明るい



絆で結ばれた温もりのある明るい家庭、
明るい地域社会にやさしく包まれて
市民一人ひとりがまちの主役となって
自分らしく明るく輝けるように

・・・という想いが込められています

緑



市民共有の財産である五条川と桜、
そして周りの田畑。
身近な自然から地球を考え、
多様な自然を守り育てることで、
いつまでも私たちの暮らしに
うるおいとやすらぎを与えてくれるように

・・・という想いが込められています

文化



山車やお祭り等の地域固有の伝統文化、
市民の力で育まれ、
日々の暮らしに根付いた
音楽などの身近な生活文化、
多様な文化に親しみ、実践することで
心豊かで創造的なまちであるように

・・・という想いが込められています

2 基本理念

● 岩倉市でも決して無関係ではない「無縁社会」「孤立社会」 ●

携帯電話やインターネット、デジタル家電、24 時間営業のコンビニエンスストア……。情報化の進展やこれまでにないサービスが提供され、着実に向上してきた暮らしの利便性。その一方で、安心した暮らしの基盤となるはずの人と人のつながり・絆は、どのように変わってしまったのでしょうか。

家族や地域社会の中での人と人との関わり。かつては、ごく身近に感じることができました。しかし、暮らしの利便性と引き換えるかのように、人間関係は希薄になり、子育ての孤立化が原因となった児童虐待や高齢者の孤独死などが社会問題化しています。防災力・防犯力、支え合い・助け合いの心など、地域のセーフティーネットも弱体化し、それは社会不安にもつながっています。

「無縁社会」「孤立社会」といわれるような社会状況。それは、高齢化や家族の少人数化が進んでいるこの岩倉においても、決して無関係なことではありません。

我がまち岩倉が、将来にわたって、そうならないようにするためには……。

● 一人ひとりの市民の「役立ち感」に満ちた市民社会へ ●

高齢者の長年培ってきた知識や経験、知恵は、貴重な社会資源です。地域社会や身近な人から頼りにされ、喜ばれることで、「役立ち感」を実感し、自身の喜びや生きがいにもつながります。地域の中で活躍する子どもたち。それをほめる身近な大人たち。子どもたちが「役立ち感」を実感するときです。子育ては、家庭の中だけでなく、地域社会との様々な関わりを持ちながら、次世代を生み育てるという、社会的にも大切な営みの一つです。

人は一人で生きているのではなく、人と人とのつながりの中で生きています。地域社会や人の役に立ったという「役立ち感」を実感することは、自分の存在への自信になります。そして、相手を思いやる心、自分を大切に思う自尊心の育みにもつながっていきます。このような気持ちや心は、人間関係の中でこそ生まれるものであり、そして、だれにとってもかけがえのないものです。

子どもも高齢者も、男性も女性も、障害のある人もない人も、市民のだれもが、
「役立ち感」につながるような自分なりの役割や地域社会への関わりを持つこと。
それをお互いに認め合い・尊重し合いながら、
共に支え合い・助け合える温かな地域社会を育んでいくこと。

こうした支え合い・助け合いの地域社会づくりを通じて、
従来の血縁、地縁、職縁に加えて、共通する志や思いによって結びつく「志縁」、
物事に対する関心や知識欲、情報ネットワークによって結びつく「知縁」など、
新たな“縁”を含めた多様な縁を創ることによって、人と人の絆はより確かなものになります。

そして、そのつながりから生まれる「役立ち感」に満ちた一人ひとりの市民、
そうした数多くの市民で満ちている社会をめざすこと。

これを、人口減少時代、超高齢社会の到来を間近に控えている本市の新たな協働の理念、これからあるべき
市民自治や、市民のだれもがいつまでも安心して幸せに暮らせる地域社会の概念として位置付けます。

すなわち、

第3次総合計画の基本理念である
「豊かな心と協働による成熟した市民社会をめざす」の
次の段階の協働のあり方を展望して

基本理念

多様な縁で創る 「役立ち感」に満ちた市民社会をめざす

をまちづくりの基本理念とし、
普遍的な将来像「健康で明るい緑の文化都市」の実現をめざします。

第2章 まちづくりの基本目標と施策の大綱

基本理念を具現化し、本市の普遍的な将来都市像「健康で明るい緑の文化都市」を実現するため、次のように、6つの基本目標を設定し、これらの基本目標を柱として基本施策を位置づけます。

基本目標 1



安心していきいきと暮らせるまち
(健康・福祉)

基本目標 2



自然と調和した安全でうるおいのあるまち
(環境・防災防犯)

基本目標 3



豊かな心を育み人が輝くまち
(生涯学習・教育)

基本目標 4



**快適で利便性の高い魅力あるまち
(都市基盤)**

基本目標 5



**地域資源を生かした活力あふれるまち
(産業)**

基本目標 6



**市民とともに歩む ひらかれたまち
(協働・行財政運営)**



2020 いわくら暮らしのスケッチ

基本構想で設定した6つの基本目標でめざすまちの将来の姿をイメージできるように、基本目標ごとに将来の暮らしの様子をスケッチしました。

これらの将来の暮らしの様子は、市民まちづくり会議で提案された「協働のまちづくりプラン」や「10年後の暮らしの姿(2020年いわくら家族物語)」などを素材にして描いたものです。

基本目標 1 安心していきいきと暮らせるまち(健康・福祉)

生き生きと健やかに暮らすためには、心身ともに健康であることが必要です。子育ての喜びを感じ、高齢者や障害のある人をはじめ市民のだれもが健康で、住み慣れた地域で互いに思いやり・支え合い・助け合いながら、個々がいつまでも元気で充実した生活を送ることができる環境を整備します。また、各種社会保障制度の適正な運用や啓発を図り、安心して暮らすことのできる社会環境づくりを進めます。

1 健康

- 1 母子の健康づくり
- 2 成人の健康づくり
- 3 医療・感染症予防

2 市民福祉

- 1 高齢者福祉・介護保険
- 2 子育て・子育て支援
- 3 障害者(児)福祉
- 4 地域福祉

3 社会保障

- 1 福祉医療
- 2 低所得者の生活支援
- 3 公的医療保険・年金



健康で幸せ、元気で長生きの健康づくり環境

私は50歳の自営業で、母、妻、長男と長女の5人暮らしです。実は、私、数年前まで仕事柄食事の不規則で普段歩くことも少なく、お腹も随分出てきて…いわゆるメタボ[※]体型でした。ある年、市の健康診断の結果を踏まえて、保健師さんに保健指導を受けたのをきっかけに、自分のためだけでなく、家族のためにも、健康を大切にしていこうと思いました。

それからは毎朝、少しだけ早起きし、五条川沿いの尾北自然歩道を歩いています。ここは、最近健康ウォーキングロードとして距離表示も整備され、四季を通じて、若い人からお年寄りまでたくさんの方が歩いています。その途中の休憩所では、近所のお年寄りたちが集まってラジオ体操をしています。聞いたところでは、地区で開催された健康教室を受講した人たちが、自主的にグループを作って始めたものだそうです。今日は、母の顔も見えました。

家に帰ると、食卓には栄養バランスのよい朝食が並んでいます。生涯学習講座で健康料理教室を受講した妻がつくってくれたものです。

今年の健康診断の結果は「良好」でした。これからも健康な生活を続けていきたいと思います。

多様な子育て支援が整った、子育て家庭にやさしいまち

5年前、結婚後の住まいを探していた私たちは、岩倉市は子育てをしやすいまち、ということを知り、友達から聞き、引っ越してきました。その後、一男一女を授かり、今は子育て真っ最中です。

子どもが生まれると、夫は、おしめを替えたりお風呂に入れたり、随分子育てに協力してくれました。ただ、最初の子が生まれたときは、やっぱり子育てに対する不安がありました。でも、訪問相談で保健師の方が紹介してくれた子育て支援センターの「子育てふれあいタイム」に参加して、他のお母さんたちと話していると、いろいろなお話が聞けたり、また相談にのってもらったりして、とても気が楽になったのを覚えています。

最近、子どもたちも少し大きくなって、子育てにも少し余裕ができました。近所のお年寄りが自



宅のお庭で開いている「こどもらんど」で子どもを遊ばせて、お母さん友達とランチに出かけることもあります。また、この「こどもらんど」には、近くの人も集まってきて、いつもみんなの賑やかな声が聞こえてきます。

来年から、上の子は小学生。児童館では、子どもたちが安心して集まり、友達もたくさんできるだろうし、保育サービスや子どもを預かってくれるところもあるし、もうそろそろ働き始めようかなあ。

みんなで支え合い、生きがいを感じて地域で暮らす

「おはようございます！」朝、自宅前の道端の掃除をしていると、登校中の子どもや散歩をしている人たちが元気にあいさつをしてくれます。この時間は、「今日も一日頑張ろう」という気にさせてくれます。

お昼が近づいてきたので、隣のおじいちゃんを誘って近くの集会所に向かいます。いいにおいが漂ってきました。今日は、ボランティアの方たちが開いている昼食会です。世間話しながら近所のお母さんたちの心のこもった温かい料理を食べるのは、いつも本当に楽しいひとときです。それに、お母さんたちの子育ての相談にのったり、地元産の食材を使った料理の作り方を教えてあげたりすると、「役に立っているかな」と、ちょっとした生きがいにもなっています。そういえば、この昼食会の料理は、集会所に来られない人も宅配でいただくこともできます。

夕方、近くに住む学生さんが「おばちゃん、元気？」と声をかけてくれました。「元気だよー」と返しました。ひとり暮らしだけど、地域の皆さんとのつながりを楽しみながら暮らすことができ、さびしくはないですね。



基本目標 2 自然と調和した安全でうるおいのあるまち (環境・防災・防犯)

本市のシンボルである五条川の美しい流れや桜並木、鎮守の森、田園風景など、本市の豊かな自然の恩恵を享受し、うるおいのある生活を送ることができるよう、身近な自然環境の保全・育成を図るとともに、地球環境への負荷が少ない循環型社会^{*}の形成を推進し、自然と調和した生活環境を整備します。

さらに、防災対策や消防・救急体制などを充実するとともに、犯罪や事故などを発生させない環境を市民との協働で整備し、安全に安心して暮らすことができるまちづくりを推進します。

1 水辺環境の整備・活用

2 公園・緑地

3 環境保全

1 総合的な環境政策の推進

2 廃棄物・リサイクル

3 生活環境の向上

4 防災・防犯

1 防災・浸水対策

2 消防・救急

3 防犯・交通安全



市民が守り育てる五条川の水辺環境と身近な公園・緑地

五条川沿いを歩いていると、魚や鳥、草花などの絵と簡単な説明が書かれた看板、それに、ちょっと座るのに便利な休憩用のベンチなどが目につきます。これらは、五条川などの水辺を大切にしたいと思う住民の手作りによるものです。最近では、こうした市民グループにまじって、五条川流域の清掃や桜の保全活動などに取り組む中高生のボランティアグループの姿もよく見かけます。また、夏には魚採りや水遊びなどを楽しんだ親子連れが、桜の木陰で一休みする様子も。桜並木の映る五条川の水面も本当にきれいです。多くの市民から、五条川が「我がまちの宝」として四季を通じて愛されている姿は、長年五条川のそばで暮らしてきた私たち老夫婦にとって、大変誇らしく、うれしいものです。

昔、近くの公園や田畑で昆虫採集に熱中していた近所の子どもたちも、今では立派な大学生になって、時折、我が家にも顔を出してくれます。彼らも週末には学生ボランティアとして、豊かな生態系が再生された自然生態園や学校ビオトープ^{*}、地域の皆さんが大切に管理している公園などをフィールドにして、子どもたちに環境学習の指導をしています。

今後も、こうした、そこに住む人たちが主役となって身近な自然をいつくしむ想いを、皆で大切に育てながら、うるおいのある岩倉らしいまちの様子を守っていきたいと思います。

家庭や地域、事業所での環境配慮が進み地球温暖化※防止に貢献

三世代が仲良く暮らす我が家の自慢は、身近な“エコライフ※”です。昔ながらの暮らしの知恵を教えてくれるおばあちゃん。毎日、きちんとごみの分別をし、生ごみを堆肥化して家庭菜園に汗を流すお母さん。いち早く太陽光発電にしたり、エコカーを買うことを決めたりしたのはお父さん。自然生態園を遊び場にしている自称“生き物博士”の弟（彼は、太陽光発電のメーターを見るのを楽しみにしています）。そして、学校では“緑のカーテン”グループリーダーの私。そんな家族みんなで協力しながら、頑張っ

てエコライフに取り組んでいます。弟が、この前の授業で市役所の人から「みんなの取組のおかげで、ごみの量も減ってきているよ」という話を聞いてきました。早速二人で市のホームページを見たら、まち全体のごみの減量化や資源化が着実に進んでいるということが紹介されていました。

お父さんの話では、市でも環境への取組が進められていて、環境のことを考えたエコライフが広がっているそうです。そういえば、近所でも太陽光発電パネルが取り付けあったり、駐車場に電気自動車がとめてあったりするお家も随分と増えました。それに、市内でも環境を大切にしている会社やお店なども増えてきたそうです。お母さんは、買物のときには、環境ラベルのついた商品を買うようにしていて、お友達同士でも、そういった取組のグループをつくりました。

こうして、みんなが協力して環境を守ろうとしてきたおかげで、岩倉市全体で地球温暖化防止のための取組がすごく進んでいるんだよと、少し自慢してもいいかなと思います。

住民の意識向上と地域の防災・防犯力強化で災害や犯罪の被害を抑制

大規模な地震や風水害などの発生に備えて、私の町内では自主防災組織を中心に、実際に消火器を使ったり、救命方法を学んだりする訓練や講習会など、地域の防災力を高めるための活動に積極的に取り組んでいます。数年前に参加した防災訓練で、消防署の職員からお話のあった防災ほっとメールは、息子が私と夫の携帯電話に登録してくれました。また、家具も固定したり、災害時の非常持ち出し袋やミネラルウォーターなどの準備もしています。万が一の場合には、隣近所の助け合いが重要だということで、普段からのお付き合いも大切だなと思っていました。

今は、昨年60歳で定年を迎えた夫と一緒に、地域安全パトロール隊や子どもの登下校を見守るボランティア活動に参加しています。ご近所の皆さんと一緒に活動している時、通りがかりの人から「お疲れさま」とか、子どもたちから「ありがとう」と言われると、地域の防犯や交通安全にも少しはお役に立っているかなと思っています。

こうした取組を通じて、安全・安心に対する住民意識が高まり、また地域コミュニティの強化が進んだことで、我が町では過去5年間に火事はもちろん、犯罪や交通事故の発生もゼロに抑えられています。これからも、この記録を伸ばしていくことが私たち町内会の目標です。



基本目標3 豊かな心を育み人が輝くまち(生涯学習・教育)

学ぶことにより、生きがいやたくましく生きる力が育まれ、市民一人ひとりが夢と希望を持って自分らしく充実した人生を送ることができます。学校教育や多様な生涯学習活動を通じて、共に学び合い、考える力を育て、豊かな心を育む環境づくりを進めるとともに、だれもが気軽にスポーツや文化・芸術活動を楽しみながら自己実現を図り、また社会貢献につなげることができるような環境づくりを進めます。

1 生涯学習の推進

- 1 生涯学習
- 2 市民文化活動
- 3 文化財の保護・継承
- 4 図書館
- 5 青少年健全育成・家庭教育
- 6 スポーツ

2 学校教育

- 1 学校教育
- 2 特別支援教育



文化やスポーツ、先生として表現者として、多様な生涯学習の場

定年退職してから4年。今、私は、生涯学習センターの自主企画講座でジャズ教室の先生をしています。もともと趣味で長くサックスを吹いてきましたが、先生役になったきっかけは、会社の「退職後の生活講座」で市の職員の人から生涯学習講座やボランティア活動を紹介され、退職後に参加したことからです。その後、自分でも何かできることはと考えたとき、サックスなら多少、人に教えることはできるのではということで、自主企画講座の一つに組み入れてもらいました。

私の教室の生徒さんは、男性が多く、年齢は30～60代と幅広くなっています。レッスン後、駅前のバーで生徒さんたちと交わす音楽談義も楽しみの一つです。今度、ボランティアサークルが運営している地区の公会堂で「いわくらディナーライブ」に出演することになり、みんなの練習にも熱が入ってきました。

今日、他の講座の担当の方たちとの打ち合わせに生涯学習センターへ行くと、ロビーの展示スペースでは、サークルの展示会が開かれていました。会員の皆さんが楽しみながら作られた力作がたくさん並べられ、見ていても楽しくなりました。

話は変わりますが、孫は、学校から帰るとランドセルを置いて、地域の人がやっているスポーツクラブに通っているようです。今度、市内の各小学校で種目ごとにイベントがあるようで、「おじいちゃん、見に来てね!」と言われました。退職してからの方が忙しい毎日かもしれません。

市民とともに、遺跡・文化財を活用し、歴史・ロマンあふれるまち

岩倉には歴史・ロマンがあります。史跡公園、岩倉城跡や山内一豊誕生地など、縄文・弥生時代から室町時代に至るまで多くの歴史遺産があります。また、何といても400年近く前に制作されたといわれる3台の山車は立派であり、「岩倉市山車保存会」による春と夏の揃い曳きは圧巻です。そして、そこで演じられる、からくりやお囃子も観る者をひきつけます。

私は、この岩倉の歴史・文化をぜひ多くの人に知っていただきたくて、文化財活用ボランティアになりました。生涯学習センターで定期的に開かれている「文化財講座(ボランティアコース)」を受講し、これまで寄贈を受けた古民具や発掘された土器などを整理してきました。そして、図書館の郷土資料室や地域交流センターくすのきの家の展示スペースで紹介文を添えて展示しています。また、皆さんに何度も足を運んでもらえるように、2～3週間ごとに展示を入れ替えるようにしています。最近では、企画も任されるようになり、他のメンバーと相談しながら、展示内容に工夫を凝らすようにしています。

この展示には、小学生たちが社会見学に来てくれたり、お年寄りが散歩のついでに立ち寄ってくれたりしますが、岩倉の観光スポットにもなるように、自分もいろいろなことを勉強しながら、展示スペースをもっともっと魅力的にしていきたいと思っています。

家庭・学校・地域が協力して特色ある学校運営を実現

最近、小学校4年生の次男は以前にも増して学校が楽しいみたい。話を聞いてみると、身近な自然やもっと大きな地球のことなどを考える環境のこと、それには外国のことも知りたいということで外国語。そして、世界中の情報を知ることができるインターネットのことなど、いろんなことを教えてもらう授業に興味が出てきたようです。近所のおばちゃんやお店をやっているお友達のお父さんなどが授業に来て、昔の遊びや仕事の話などを教えてくれるのも楽しいよう。また、近所の人たちが障害のあるお友達のことをサポートしたり、校舎や学校周辺の掃除などをしてくれるのも、子どもたちや学校にとってもいいことみたいです。でも実は、一番の理由は、地元産の食材で作られるようになって、おいしくなった給食かもしれません。こうしたことは、地域の人たちと先生が協力して、学校運営に取り組んできた成果だと思います。

それから、「子どもは未来のまちづくり人」という合言葉の下で、子どもの自主性を尊重した教育が進められ、子どもたちの社会参加が活発であることも岩倉の教育の魅力だと思います。中学2年生の長女もボランティアサークルで、桜まつりの観光ボランティアや飲食店での職場体験など、とても貴重な経験をしているようです。先日も、「お客さんにほめられた」とうれしそうに話していました。

家庭と学校、そして地域が協力し合って、心豊かでたくましい子どもたちが育まれている様子を見るにつけ、私たちのまち岩倉の将来が楽しみな今日この頃です。



基本目標4 快適で利便性の高い魅力あるまち(都市基盤)

日々の暮らしを快適に過ごすためには、道路や上下水道、市街地などの良好な都市基盤や質の高い住まい、利便性の高い公共交通網などが整備されていることが重要です。また、本市の特性を生かした個性ある景観の保全・形成も都市の魅力向上には欠かせません。都市の健全な発展と秩序ある整備を図り、市民だれもが快適さや安全・安心な生活を実感しながら暮らせるまちづくりを進めます。

1 交通対策

2 道路

3 市街地整備

4 住宅

5 景観形成

6 上水道

7 下水道



歩行者・自転車にとって安全・快適になった道路環境

秋晴れの朝、いつもどおりの名古屋の職場までの通勤。岩倉駅までは毎日自転車を利用しています。時間に余裕がある時は駅から少し離れた無料の駐輪場を利用していますが、今日は家を出るのが少し遅れたので、駅に近い有料の駐輪場を利用しよう。以前は、すべてが無料であったため、駅から近い所ばかりが混んでいて、急いでいる時にとめられず困ってしまったこともよくありました。でも、駅から近い駐輪場が有料化されてからは、そのようなこともほとんどなくなりました。

自宅から駅へ向かう道路で自転車が走れるような広い歩道が整備された箇所はまだ一部しかありませんが、路肩部分がカラー舗装^{*}された所が増えたので、以前に比べて随分安全に走行できるようになりました。同じようなカラー舗装整備は、小学生の息子の通学路でも進められています。また、見通しが悪く信号機が設置されていない交差点には、舗装の色やデザイン、素材を工夫することで自動車の走行速度を抑える効果がある「イメージハンプ」が設置されています。これで、出会い頭の交通事故がよく起こっていた交差点では事故が激減したと聞いています。

こうした道路整備は、足が不自由で車椅子を利用している私の友人からも「車椅子でも出かけやすくなった」と好評を得ています。また、歩行空間ばかりでなく、公共施設のバリアフリー^{*}化・ユニバーサルデザイン^{*}の導入も随分進んだと喜んでいます。



街並みが整い、若い世代の住民が増えてきた岩倉駅東周辺市街地

私は、30歳代後半のサラリーマンです。1年半前に岩倉駅近くに新しく出来たマンションを購入し、妻と小学生の長男、保育園児の長女と4人で、この岩倉に移り住みました。私の住んでいるマンションは、子育て世帯にやさしい造りになっているので、私たちと同じような年齢層の家族が多く住んでいます。近くの店のご主人によると、以前は、高齢者が多かった岩倉駅東地区にも、人が出歩くようになって少し活気が出てきたそうです。

そういえば、私の住むマンションが面している岩倉駅前から五条川に向かう都市計画道路が、もうすぐ完成するそうです。工事も途中なので、沿道にはまだまだ空き地になったままの所が多く見かけられますが、少しずつ目新しい商店や中高層のマンションに建て替わり、新しい岩倉の街並みが出来つつあります。この駅前通と交差している岩倉街道には、高齢者福祉サービス事業所や商店など、昔の街並みをモチーフにしたデザインの新しい建物が徐々に増えてきています。

今は、駅前と駅前通の近代的な街並みと懐かしい雰囲気のある岩倉街道の街並み、五条川の桜並木、市街地周縁部に広がる田園風景の4つのコントラストのある景観が我がまち岩倉の特色にもなっています。五条川に沿って、郊外の田園の広がるのどかな所まで、家族でゆったりと散歩するのが我が家のリーズナブルな、そして四季を感じる週末の過ごし方となっています。

基本目標5 地域資源を生かした活力あふれるまち(産業)

活発な産業経済活動により人や物が交流する賑わい空間が生まれ、人とまちを生き生きと輝かせます。そんなまちの成長力の源となる地域産業の活性化を図るために、農業振興や商工業の発展、雇用の促進、さらに交通利便性や特色ある地域資源を生かした観光や交流の推進により、活力あふれるまちづくりを進めます。

1 農業

2 工業

3 商業

4 消費生活

5 勤労者福祉

6 観光・交流



定年退職後に農ある暮らしを実践！ 小遣い稼ぎで生きがい倍增、地産地消^{*}にも貢献

私は、68歳の元サラリーマンで、今は、日々、農ある暮らしを満喫しています。こんな私ですが、定年退職後の1年間ぐらいは妻との旅行などでのんびり暮らしていたものの、そのうちにやることもなくなり、家でゴロゴロしていると、妻からも「何か趣味を持ったら」と言われるようになりました。そんな折、目にとまったのは、広報いわくらの「シニア世代の生きがいづくり講座」の案内でした。様々なテーマによる数回の連続講座があり、そのうちの一つとして農業体験塾が開催されていることを知りました。

そこで、早速、農業体験塾に参加。1年後には遊休農地を活用した市民農園を借りて、野菜やブルーベリー等の果樹を栽培するようになりました。また、農業体験塾卒業生仲間と一緒に米づくりも始めました。最初のうちはなかなかうまくいきませんでしたが、今では産直市にも出品するようになり、ちょっとした小遣い稼ぎにもなっています。

こうして農業に精を出す私を最初は冷ややかに見ていた妻も、次第に私の借りている農園に顔を出すようになりました。そうこうするうちに、農園仲間や農作業の指導的な役割を果たしてくれている農家のおばちゃんたちとも仲良くなってグループを結成し、今は、地場野菜等を使った料理教室を開いています。また、保健センターの管理栄養士さんの指導も受けながら、健康を考えたお惣菜や漬物、お弁当などを作って、共働き世帯の主婦やひとり暮らしのお年寄りに宅配する事業をコミュニティビジネス^{*}として立ち上げようとみんなで考えているようです。

市民ぐるみのイベントの開催などで賑わいが生まれてきた中心市街地

先週末、岩倉駅東再開発ビルの完成 10 周年記念として、イベントが大々的に開催され、歩行者天国にもなった岩倉駅東の駅前周辺は、とても多くの人たちで賑わいました。このイベントには、生涯学習センターもオープン 10 周年ということで、生涯学習サークルからも多くの参加があり、趣味の作品を販売するお店も出されていました。

岩倉駅前周辺では、市民や商業者などが協力してイルミネーションやフリーマーケットといった市民ぐるみのイベントが、年間を通じて頻繁に開催されるようになっていきます。また、岩倉駅地下連絡道で開催されてきた「野菜の広場」の輪も広がり、駅前広場周辺でも産直市が定期的にかかれるようになっていきます。その顔ぶれを見ると、定年退職後に農業体験塾に参加したことをきっかけに農業を始めたという人もいます。こうした産直市では、作った人の顔が見えるのが安心だと、なじみのお客さんもついています。

また、商店街では、小物やかわいらしいコップなどの手作り雑貨を販売する、ちょっとおしゃれなお店があります。これは、以前の空き店舗を利用して、ママサークルのメンバーが運営しているお店です。こうした市民起業型のお店も、最近はちらほら見かけるようになり、お店をのぞき込む人たちも多くなります。

このような地域や市民同士の様々な動きがある中で、中心市街地の日常的な賑わいが少しずつ生まれ、地元商業の活性化にもつながっています。

桜で華やぎ、多くの市民や来訪者の絶えることのない五条川

今年も桜の時期が来ました。毎年のことですが、この時期になると岩倉のまちは一気に華やぎ、私もワクワクします。一時期は樹勢が低下した桜並木も、市民ぐるみで手入れや後継木を育てる活動を続け、今では元気によみがえっています。また、五条川沿いの休憩所のリニューアルや堤防道路の再整備により、以前にも増して安全に、そして快適に散策が楽しめるようになりました。

こうして整備が行き届いた五条川堤防道路は、歩行者・自転車ロードとしても多くの市民や来訪者に利用されています。運動不足気味であった私の主人も毎週末の朝には、往復 10km のウォーキングを楽しんでいます。三日坊主の主人に、これを継続させているのは、どうも五条川沿いにあるカフェに理由がありそうです。ここのモーニングは、岩倉産の米粉を使ったパンが評判で、市外からもお客さんが来るそうです。また、この店先で販売している地元の朝採れ野菜が我が家の食卓を飾ることもしばしばです。

今日は午後から観光ガイドボランティアとして、大野市からの観光客 30 名をご案内する予定です。子どもに手がかからなくなった数年前から、このボランティアに参加するようになり、今では後輩のボランティアさんに教える立場にもなりました。20 年近く前に市民グループが始めた観光ガイドボランティアの事務局機能は、今は観光振興を進める組織に受け継がれています。今日は五条川や近くの史跡の案内ですが、レンタサイクルに乗って史跡公園や自然生態園を巡るコースもあります。こうした郊外の観光スポットやそこに至る道路も、路肩部分のカラー舗装や案内サイン類の整備が随分進みました。

五条川の桜と子育てしやすいまちに魅せられて家族で引っ越してきてから 20 年。桜だけでなく、岩倉のいろんな名所・旧跡を巡ったり、そして遠くの人たちとお話ができることも楽しみにしています。

基本目標6 市民とともに歩む ひらかれたまち（協働・行財政運営）

地域の魅力や個性を生かし、市民自らが担い手となって誇りと愛着を育む協働のまちづくりを推進するために、市民と行政との協働を基本とした、だれもがまちづくりに積極的に参画することができる環境を整備するとともに、行政情報を広く提供するなど、開かれた行政経営を推進します。

また、限られた財源の中で多様化する地域課題に的確に対応するために、自立性が高く、効果的・効率的な行財政運営や広域的な都市間連携を進め、将来の世代に負担を課すことのない持続可能な都市経営に努めます。

1 市民協働・地域コミュニティ

2 男女共同参画

3 国際交流・多文化共生

4 平和行政の推進

5 広報・広聴

6 情報公開・個人情報保護

7 行財政運営

1 行政経営

2 財政運営

3 組織・人事マネジメント



まちづくり交流イベントへの参加をきっかけにボランティアで活躍

私は、53歳の主婦です。子どもたちも独立し、時間にも余裕ができたので、自分でも何かできることはないかなと思い、3年ほど前からボランティア活動をするようになりました。

でも、最初は、特に得意なものがあるわけでもない自分が何をやってよいかわからず、とりあえず市民活動支援センターの相談窓口に行くことにしました。窓口では、有償ボランティアのまちづくりコーディネーターさんから、次の日曜日に市民活動を行っている団体が一堂に会して、それぞれの活動を紹介する「いわくらまちづくり大交流会」というイベントがあることを教えていただきました。そこに参加してみると、福祉や教育、防災・防犯、音楽のあるまちづくり、自然環境の保全、まちの活性化活動など様々な分野で活躍している、たくさんの市民活動団体がブースを構えていて、目移りしてしまうほどでした。

結局、私は、かつて自分もお世話になった子育て支援センターでの幼児を預かる「子育て広場」のボランティアを行うことにし、今もそれを続けています。

実は、これに加えて、独身時代に取得した調理師の資格を生かしたいと思い、「いわくら人財バンク」に料理の先生として登録。月に数回、料理教室の講師の依頼を受けています。そして、そこで知り合った商工会の人たちと一緒に岩倉の特産品開発に取り組み、近いうちに商品化したいとみんなで頑張っています。



市民活動を支援する制度・仕組みが整い、市民活動が活性化

今日は少し緊張しています。というのは、「まちづくり活動助成－ステップアップ部門」の公開審査の日だからです。初めは5人の友人同士でつくったグループですが、数年前に「まちづくり活動助成－はじめの一步部門」の小額助成を受けたことをきっかけに活動の輪が広がり、現在のメンバー数は30人ほどになりました。今は、市民活動支援センターに相談したりしながら、NPO法人^{*}の取得をめざしています。法人化に向けての勢いをつけるためにも、今回の助成にはどうしても採択されたいのです。

岩倉市では、自治基本条例や関連条例が市民も参加して制定されるなど、参画と協働によるまちづくりのためのルールがつけられたのを契機として、私たちのような市民活動団体は、数が増えただけでなく、その活動も活発になっています。分野もいろいろで、中にはかつては行政サービスとして行われていたことを受託する団体も随分とあり、公共サービスの新たな担い手として欠かせない存在になっています。

一方で、行政経営や各種施策の進捗状況などについて、市民との意見交換等を行う機会が設けられるようになりました。こうしたことから、「自分たちのまちのことは市民が考え、行動しよう！」を合言葉に、まちづくりの様々な分野で参加したり、提案したりする市民や、さらには行政と協働して実行に移していこうとする市民も生まれてきています。



五条川の四季 《秋》